

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第11回理事会 開催日：2月17日 出席者：藤本会長
他

1. 昭和44年度事業報告，収支決算ならびに財産目録の件
2. 昭和45年度事業計画，収支予算の件
3. 次期理事，監事ならびに評議員候補者推薦の件
4. 定款中一部変更の件
5. 定款施行細則中一部変更の件

以上承認された。

6. 日本塑性加工学会会田技術賞 候補推薦の件
高速精密鍛造機による段付軸の生産技術の確立
住友金属工業(株)製鋼所設備部工作課長

加藤 一郎君
鍛造工場副長
益田 晃尚君

推薦することを決定。

7. 共同研究会庄延理論分科会主査解囑委囑の件
(報告)

解囑 岡本 豊彦君

(住友金属工業(株)中央技術研究所次長)

委囑 藤元 克己君

(川崎製鉄(株)技術研究所次長)

決定。

8. 昭和45年度服部賞，香村賞，俄論文賞，渡辺三郎賞，渡辺義介賞，渡辺義介記念賞，西山賞および西山記念賞各受賞者決定の件

候補案どおり決定した。

企 画 委 員 会

第10回委員会 開催日：2月17日。出席者：依委員長
他9名。

1. 定款中一部変更の件
住居表示，理事定員ならびに常務理事設置に伴う定款変更に関する定款中一部変更案が資料のとおり承認された。
2. 定款施行細則中一部変更の件
資料どおり承認された。
3. 共同研究会規程中一部変更の件
共同研究会副幹事長設置に伴う規程中一部変更が資料どおり承認された。
4. 昭和44年度事業報告，収支決算報告，財産目録の件
事業報告資料中，国際交流活動に東南アジア鉄鋼協会の設立，英国100年祭出席の記事を追加することで，他は資料どおり承認された。
5. 昭和45年度事業計画，収支予算の件
資料どおり承認された。
6. 昭和45年度日本塑性加工学会会田技術賞推薦の件
「高速精密鍛造機による段付軸の生産技術の確立」。

住友金属工業(株)製鋼所 加藤 一郎君
〃 〃 益田 晃尚君

上記研究を推薦することになった旨報告がなされ，承認された。

7. 昭和45年度通産省重要技術研究費補助金交付申請の件

公害関係「ロークス炉の防塵対策」についての45年度補助金交付申請はしないこと，ならびに原子力部会関係の補助金申請については，早急に内容的にまとまった段階で申請することが承認された。

また，「ジェットエンジン用耐熱合金の製造法に関する研究」を昨年に続いて申請することを企画委員会として決定した。

第14回材料研究連合講演会共催(分担金10000円)，
第12回高圧討論会共催(分担金10000円)が承認された。

研 究 委 員 会

第7回委員会 開催日：2月17日。出席者：今井委員長，他23名。

1. 報告事項

第12回鉄鋼基礎共同研究会運営委員会について議事録をもとに事務局より報告され特に現在の「微量元素部会」「非金属介在物部会」，「転位論部会」の3部会が45年度中に活動を終了し新たに「再結晶部会」，「遅れ破壊部会」を設置する旨説明があつた。

2. 審議事項

(1) 昭和45年度通産省重要技術研究開発費補助金申請の件

申請テーマとしては44年度に続き「ジェットエンジン用耐熱合金の製造法に関する研究」と「直接還元法に関する研究」を現在検討中であるが，その検討内容が説明され，申請することが承認された。

- (2) 鉄鋼技術情報専門センター設立の件

前回の当委員会で説明があり今回は各委員から，この構想について質問，意見が述べられ，さらに詳細事項の検討を行なうための準備委員会を設立することが承認された。

編 集 委 員 会

第12回和文会誌分科会 開催日：2月13日。出席者：
荒木主査，他19名。

1. 論文審査報告

13件の報告があり，掲載可11件，修正依頼2件。

2. 「鉄と鋼」第56年第6号(5月号論文集)論文選定について

論文13件，技術報告2件を選定した。

3. 抄録小委員会について

抄録小委員会を再編成することになり，事務局の委員メンバー案に基づき編成した。

4. 技術資料記事依頼について

技術資料 10 件を依頼、技術報告 3 件を勧誘することになった。

第12回欧文会誌分科会 開催日：2月25日。出席者：中村幹事，他 15 名。

1. 技術用語の英語表現をある程度統一するために、今問題になっている 2, 3 の用語について鉄鋼協会の技術部会で英語表現を検討してもらうこととなった。

2. 10 件の論文について査読報告がなされた。

3. 委員よりの推薦と鉄と鋼 56 年 2 号をもとに 11 件の論文について執筆を勧誘することとなった。

第10回講演大会分科会 開催日：2月18日。出席者：草川主査，他 20 名。

1. 講演分類の検討

2. 第 79 回大会の際会場に担当委員を置くことに決定。

第10回出版分科会 開催日：2月20日。出席者：佐藤主査，他 17 名。

「鉄鋼製造法」主査会議を兼ね開催された。

各編の進捗状況について各主査より報告があつたのち目次の調整，問題点の検討を行なつた。なお，最終目次案は 4 月中旬の製造法編集委員会に提出することになっている。

共同研究会 製 鋼 部 会

第 8 回電気炉分科会 開催日：2月 12, 13 日。出席者：松本主査，他 55 名，

今回は開催場所を東海地区に移し，2月12日は名古屋都ホテルにて資料の発表を行ない，13日午前愛知製鋼知多工場，午後トビー工業豊橋製造所の工場見学を行なつた。

なお，今回発表された資料は次のとおりである。

特別講演

電気炉の現状とその将来

三菱製鋼 取締役 中司正夫氏

共通テーマ

(i) 電気炉の高電力操業について 3 件

(ii) 主原料対策 4 件

(iii) 電気炉作業での省力化 4 件

自由テーマ 6 件

文献紹介 1 件

第39回圧延理論分科会 開催日：2月26, 27日。出席者：藤元主査，他 56 名。

1. Hitchcock 式修正による圧延変形理論の再検討，ロール変形，形状制御，先進率の検討，タンデムミル最適パススケジュールの検討，孔型圧延の幅拡がりなどにつき活発に討議された。

2. 川崎製鉄技術研究所を見学した。

熱 経 済 技 術 部 会

第45回部会 開催日：2月 9, 10日。出席者：桑畑部会長，他 60 名。

日新製鋼製鉄所で開催した。

今回は公害対策，主に集煙集じん対策の検討，加熱炉・均熱炉・焼鈍炉の能力アップの検討，エネルギー管理構想の検討を実施した。

計 測 部 会

第45回部会 開催日：2月26, 27日。出席者：久田部会長，他 80 名。

今回は26日，新宿厚生年金会館，27日，神田学士会館で行ない特別議題として「ミニコンピュータについて」をとりあげた。各テーマごとに発表が行なわれ活発な討論がなされた。

- | | |
|----------------|------|
| 1. ミニコンについて | 4 件 |
| (日立・富士電気・日本電気) | |
| 2. 製鉄 | 4 件 |
| 3. 製鋼 | 1 件 |
| 4. 圧延 | 8 件 |
| 5. エネルギー | 1 件 |
| 6. 製品検査 | 1 件 |
| 7. その他 | 4 件 |
| 計 | 24 件 |

なお 44 年度小委員テーマの 1 つである「保守効果測定」に関しては 6 月頃まで終了し，45年度テーマは「転炉排ガス分析」と「圧延用ロードセル」をとりあげることになつた。

第 46 回部会予定

昭和 45 年 6 月 於 川鉄・水島

標 準 化 委 員 会

第 2 回 JIS 電気亜鉛めつき鋼板および鋼帯原案分科会 開催日：2月18日。出席者：久松主査，他 26 名。

前回では JASO-6827 (自動車用電気亜鉛めつき鋼板および鋼帯) について討議したが，JASO では原板の対象を冷延材のみとしているので今回これに熱延材を含めた規格原案を作成し討議した。その結果特に問題なく当原案分科会の審議を終了した。

第 3 回 炭素工具鋼合金工具鋼原案審議分科会

開催日：2月18日。出席者：吉田主査代理，他 26 名。

前回の分科会での決定にしたがいメーカーサイドで審議案案を作成提出し検討を行なつた。その検討結果は次のとおりである。

1. 炭素工具鋼

(1) 油焼入用炭素工具鋼の追加

油焼入れ用炭素工具鋼としてメーカーサイドから要望の強い SK 3, SK 4, SK 5 に Mn, Cr を添加した SK 31, SK 41, SK 51 を検討し判定する。

(2) 脱炭許容限度を制定する。

(3) 標準寸法の制定を行なう。

2. 合金工具鋼

(4) SKTI は廃止し，最近生産量の多い AISI-H12 に相当する SKD62 を新しく制定する。

(5) 脱炭許容限度を制定する。

(6) 標準寸法の制定を行なう。

以上の事項を中心としてさらに詳細を検討していくことになった。

第2回 JIS 「一般構造用耐候性鋼材」原案分科会

開催日：2月20日。出席者：荒木主査，他20名。

1. 第1回分科会の結論に基づく素案を検討した。
2. 熱延材 (SPA-H) は厚さ 16 mm 以下，冷延材 (SPA-C) は 2.3 mm 以下を対象とする。
3. その他，降伏点・引張強さ・伸び値などに若干の修正がなされた。
4. 次回は3月下旬に開催予定。

試験高炉委員会

第17回委員会 開催日：2月24日。出席者：辻畑委員長，他11名。

第21次操業計画の審議

1. 試験高炉操業テーマ

試験高炉の今後とり上げるテーマは天然ガス，重油などの大量吹込の研究，低反応性コークスの使用，ホットチャージ，予備還元鉬の使用試験に決定した。なお炉内諸反応の速度に関する研究は引続き進めてゆくことになっている。第21次操業では，高温送風，天然ガス吹込み，コークス性状試験をとり上げることに決定した。

2. 予算案

前年度の試験高炉操業時に損傷した熱風炉の改造または新設について討議した結果，ペブル式熱風炉（送風温度最高 1200°C，建設費約 3260万円）を新設し，建設費は業界負担することに決定した。さらに第21次の操業予算案について審議し，前記熱風炉建設費を除き，総額 2176万円の予算が承認された。そのうち業界負担金は 1076万円である。

JMTR 利用委員会

第14回委員会 開催日：2月10日。出席者：長谷川委員長，他22名。

1. JMTR の稼働状況について

原研大洗研究所の大内委員より次のような説明があった。

昨年火入れを行ないその後炉の特性チェックが終わり所定の性能が出た。この後試験期間を約1年間とり45年3月頃から有料の照射を行なう予定である。なお照射料については近々決定されるとの説明があった。

2. 文献紹介について

従来勉強会を兼ね文献紹介を行なってきたが今回も文献の紹介と討論を行なった。

資料委員会

第60回委員会 開催日：2月13日。出席者：草川委員長，他14名。

1. 鉄鋼技術情報専門センター(仮称)設立の構想(案)について，企画委員会，研究委員会に提案したが，その結果3月の理事会にこの案を提出する運びとなつた旨，報告があつた。

2. 「鉄と鋼」索引カード第2回作成配布について第1回については，昨年8月発送制となつたが，2回の印刷に当たつて事務局からカードの申込方法の改正について報告され，その結果カードのセット方法として1年間の発行論文数で one set とする方法に結論を出した。なおカードの1枚当たりの価格については次回検討することになった。

3. 索引カードに抄録をつける件について

討論された結果，論文投稿の際 200字以内の abstract を一緒に提出してもらうようにすればそのままカードに記載できるのでこの提案を編集委員会に提出することになった。

鉄鋼基礎共同研究会 非金属介在物部会

第9回部会 開催日：2月9日。出席者：荒木部長，他35名。

開催地・東京・神田学士会館

荒木部長から部会活動は今回で終わる旨挨拶があり研究発表を行なった。

1. 鋼の凝固偏析に関する研究

名大工 森

2. 凝固と介在物の生成機構(中間報告)

東北大選研 井上

3. 特殊脱酸脱窒剤添加の鋼塊における介在物の挙動

金材研 有田

4. アルミナクラスターの生成機構の解明

名大工 佐野

伊藤

終わりに内山幹事長からキルド鋼分科会の経過報告が行なわれた。なお，キルド鋼分科会研究報告書の編集は6月頃までの予定なので部会もそれまで存続する。

新 入 会 員 氏 名

(昭和45年1月1日~31日)

維 持 会 員

正 会 員

卯月 淑夫 八幡製鉄(株)東研
 佐藤 公隆 〃 〃
 宮本 勝良 〃 〃
 大津 一郎 〃 君津
 奥村 治彦 〃 〃
 山田 郷博 〃 〃
 小田 照己 住友金属工業(株)
 〃 中技研
 小田 泰雄 〃 〃
 渡辺 征一 〃 〃
 菊地 正晃 〃 和歌山
 石川 義範 日本ウェルディング
 〃 ロット(株)
 田島 栄達 〃 〃
 高津 玉男 〃 〃
 三木 良治 〃 〃
 石光 国男 (株)神戸製鋼所神戸
 岩本 剛 〃 〃
 福塚 淑郎 〃 浅田基礎研
 織田 勇三 豊田中央研究所
 竹岡 忠郎 〃 〃
 山田 銃一 〃 〃
 伊藤 照夫 大同製鋼(株)中研
 田村 守孝 〃 〃

大塚 鋼児 (株)日本製鋼所広島
 鈴木 公明 〃 〃
 小林 良弘 (株)日立製作所研究所
 宮崎 邦夫 〃 〃
 春名 正二 特殊製鋼(株)
 宮川 義正 〃 〃
 伊藤容之介 日本冶金工業(株)
 西上 正 〃 〃
 安藤 重孝 川崎製鉄(株)千葉
 橋本 修 〃 〃
 植木 一房 アイコー(株)中研
 三上 宏 〃 〃
 森下 紀夫 富士製鉄(株)釜石
 井上 裕夫 日本金属工業(株)
 西条 謹二 東洋鋼板(株)下松
 三上 泰治 住友電気工業(株)
 白井 英夫 東京芝浦電機(株)
 永井 昭 新日本化学工業(株)
 森 茂二郎 小野田セメント(株)
 越智 義春 東芝(株)
 百々 純 (社)新日本鑄鍛造協会
 上田 治 高砂鉄工(株)
 大塚 宏邦 中央発条(株)
 岡田 民雄 日本坩堝(株)
 エルダー・ (株)ミナス・ジ
 プルデンチ ユライス製鉄所
 ヴォルガダ・ メタラーグ・
 セテルパウアー ファーイースト

山口 成人 無機材質研究所
 喜多 善史 大阪大学工学部
 馬越 佑吉 〃 〃
 山内 勇 〃 〃
 斉藤 德行 広島工業大学
 学 生 会 員
 上村 繁憲 鉄鋼短期大学
 清水 文雄 〃 〃
 高良 篤夫 〃 〃
 野沢 光男 〃 〃
 広谷 勝彦 〃 〃
 石黒 明夫 名古屋大学工学部
 清水 真 〃 〃
 宮沢 憲一 〃 〃
 金山 潔士 広島工業大学
 品川 昌三 〃 〃
 岡本 正治 愛媛大学工学部
 谷 耕治 〃 〃
 城戸口俊一 早稲田大学理工学部
 古野 英樹 九州大学大学院工学研
 究科

外 国 会 員

Prof. Francesco Italy
 Savioli
 Mr. Yosiyuki Brazil
 Miyake
 Propuldona Argentina
 Siderurgica

正 誤 表

鉄と鋼, 第4号掲載の本会第79回講演大会プログラム中, 誤りがございましたので訂正いたします.

会 場 (講演番号)	講 演 題 目	誤	正
8 (235)	食塩水中のオーステナイトステンレス鋼の 応力腐食割れに及ぼす Si および Cu の影 響について	日金工川崎工博 横田孝三 工博 深瀬幸重 〇遅沢浩一郎・宮島泰通	日冶工川崎工博 横田孝三 工博 深瀬幸重 〇遅沢浩一郎・宮島泰通